

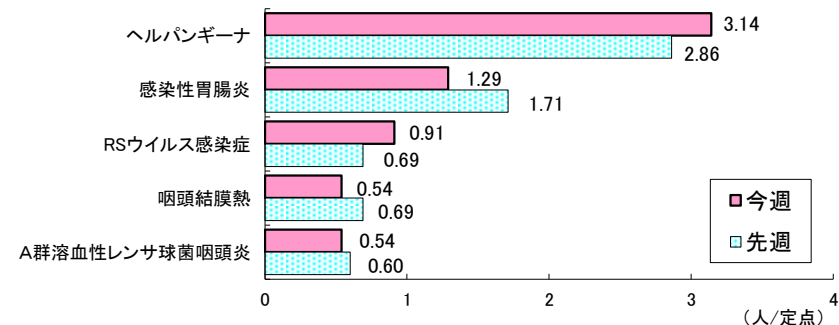


【第31週の発生動向】

<定点把握対象疾患(週報)・前週比>

- ヘルパンギーナは、県全体で10%増加しています。保健所別では、秋田市、大館、北秋田、能代、由利本荘、湯沢で増加、秋田中央、大仙、横手で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で25%減少しています。保健所別では、秋田中央、大仙、湯沢で増加、秋田市、大館、能代、由利本荘、横手で減少しています。
- RSウイルス感染症は、県全体で32%増加しています。保健所別では、秋田市、由利本荘、湯沢で増加、大館で同規模、秋田中央、横手で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



発生報告

<五類定点対象疾患(週報)>

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減			
RSウイルス感染症	0.69	0.91	↗	1.57	3.29	↗	0.25	0.25					1.00	0.25	↘	1.00	1.50	↗				1.33		↘		0.25	↗			
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.69	0.54	↘	1.00	0.29	↘	3.50	3.00	↘		0.50	↗		0.75	↗		0.25	↗	0.50		↘				0.25		↘			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.60	0.54	↘	1.00	0.71	↘							0.67		↘	0.50	1.25	↗		0.25	↗	0.25	0.25		1.00	0.33	↘	1.50	1.50	
感染性胃腸炎	1.71	1.29	↘	2.43	1.57	↘	1.50	1.00	↘				4.33	2.33	↘	2.00	2.50	↗	1.50	0.50	↘		0.25	↗	1.67	1.33	↘	1.25	1.50	↗
水痘	0.14	0.26	↗	0.29	0.57	↗		0.25	↗					0.50	0.50		0.50									0.25	0.50	↗		
手足口病	0.11	0.49	↗		0.29	↗		0.25	↗				0.67	↗			1.25	↗	0.25	1.00	↗	0.75	0.25	↘		0.33	↗		0.25	↗
伝染性紅斑	0.03	0.14	↗	0.14	0.14						1.00	↗											0.25	↗		0.33	↗			
突発性発しん	0.26	0.46	↗	0.57	1.00	↗		0.50	↗	1.00	0.50	↘				0.25	0.50	↗	0.25		↘		0.50	↗	0.33	0.67	↗			
ヘルパンギーナ	2.86	3.14	↗	1.57	2.71	↗		1.00	↗		0.50	↗	0.67	1.00	↗	1.50	1.25	↘	6.75	9.00	↗	8.50	3.00	↘	6.00	4.67	↘	0.50	4.00	↗
流行性耳下腺炎	0.09	0.09		0.29		↘	0.25		↘								0.25	↗			↗				0.33	↗				
川崎病		0.03	↗																						0.33	↗				
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*									*	*			
流行性角結膜炎	0.43	0.14	↘	1.00	0.33	↘				*	*		*	*		*	*									*	*			
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎	1.50	1.88	↗	1.00	2.00	↗				3.00	5.00	↗	3.00	2.00	↘	*	*		1.00		↘				3.00	3.00		1.00	3.00	↗
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、大館保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から2人、大仙保健所管内から2人、報告されました。
 ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田市保健所管内から1人、秋田中央保健所管内から1人、報告されました。
 ・四類感染症のつつが虫病が横手保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-30週	31週	
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	12162	69	6
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
鳥インフルエンザ(H7N9)				
三類	コレラ		2	
	細菌性赤痢		98	
	腸管出血性大腸菌感染症	1501	14	2
	腸チフス		18	
	バラチフス		12	
	四類	E型肝炎	249	1
ウエストナイル熱				
A型肝炎	587			
エキノкокクス症	7			
黄熱				
オウム病	5			
オムスク出血熱				
回帰熱	3			
キャサナル森林病				
Q熱	1			
狂犬病				
コクシジオイデス症	2			
サル痘				
ジカウイルス感染症				
重症熱性血小板減少症候群	51			
腎症候性出血熱				
西部ウマ脳炎				
ダニ媒介脳炎	1			
炭疽				

トピックス

<海外旅行では感染症に注意しましょう>

夏休み期間中は、休みを利用して海外へ渡航される方が多くなります。海外では次のような様々な感染症が発生しており、注意が必要です。旅先で感染症にかからないために、正しい知識と予防法を身に付けることが大切です。

1. 蚊やマダニなどが媒介する感染症

マラリア、デング熱、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、リケッチア症など感染症のほか、皮膚炎、アレルギー反応などもまれに起こるため、野外活動の際には、長袖・長ズボンを着用する、素足でのサンダル履き等は避ける、虫除け剤を使用するなど注意しましょう。

2. 動物からうつる感染症

鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9)、狂犬病、中東呼吸器症候群(MERS:マーズ)など海外では、動物が重篤な感染症の病原体を持っている可能性があります。動物にはむやみに触れないようにしましょう。

3. 食品等を介する感染症

A型肝炎、E型肝炎、赤痢、腸チフス、コレラ、消化管寄生虫症など開発途上国など、公衆衛生の整備が不十分な地域では、手洗いをこまめに行い、生水・氷・サラダ・果物・生鮮魚介類・生肉等、十分に加熱されていない食品の飲食は避けましょう。

4. そのほか注意すべき感染症

麻しん(はしか)、風しん、エボラ出血熱など現在、日本は麻しん排除状態にあります。2017年の届出数は187例ですが、すべて海外での感染例もしくは関連症例とされています。風しんは2017年には91例が報告され、こちらも海外での感染例と二次感染例でした。また、アフリカではエボラ出血熱などの危険性が高いウイルス性出血熱の感染例が散発的に見られています。旅先の情報を確認し、感染予防に努めましょう。

※厚生労働省、厚生労働省検疫所、及び外務省海外安全ホームページでは、各国の感染症や安全に関する詳細な情報を提供していますので、海外に旅行予定の方はご利用ください。

・厚生労働省：(夏休みにおける海外での感染症予防について)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html

・厚生労働省検疫所 (FORTH: For Traveler's Health) : (夏休みに海外へ渡航される皆様へ)
https://www.forth.go.jp/news/2018/07091500_00002.html

・外務省海外安全ホームページ：(外務省が提供する医療・健康関連情報について)
https://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/index.html

類型	疾患名	(人)		
		1週-30週	31週	
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱		1	
	つつが虫病	93	2	1
	デング熱	73		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	111		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	フルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	2		
	マラリア	24		
	野兔病			
	ライム病	3		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽	2			
レジオネラ症	1080	2		
レプトスピラ症	2			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	480		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	128	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1002	5	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	18		
	急性脳炎	426	6	
	クリプトスポリジウム症	11		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	120	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	425	5	
	後天性免疫不全症候群	723		
	ジアルジア症	41		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	286	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	25		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2133	12	
	水痘(入院例に限る)	242	5	
	先天性風しん症候群			
	梅毒	3820	7	
	播種性クリプトコックス症	100		
	破傷風	64		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	36		
百日咳	3846	20		
風しん	73			
麻しん	202			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	9			



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
咽頭結膜熱	-	大館(3.00)
ヘルパンギーナ	-	由利本荘(9.00)、大仙(3.00)、横手(4.67)

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			警報			
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	対象疾患	注意報	警報	
					基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	4	7	4	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		